

平成 26 年度事業報告の附属明細書

I. 学術集会

1. 学術委員会

委員長 坂 井 義 治

1. 定期学術集会について

定期学術集会のプログラムについて検討している。

第 115 回の特別企画や上級演題のテーマについては、本委員会で審議し、決定された。

来年の第 116 回のプログラムについても、本会として継続的に扱う特別企画のテーマや分野毎のバランスなどを考慮して検討している。

また、第 116 回より、上級セッションをシンポジウム・パネルディスカッション・ワークショップの 3 種類として、会頭が主題に合わせてセッションを選択することとなった。セッションの定義は以下の通りとした。

《シンポジウム》

ある程度完成され、すでに認められている業績を持つ演者がその業績をさらに発展させたものを示すものであり、したがって、これまでの業績を集約した完成度の高い演題をとりあげるセクションである。その意味ではシンポジストに選ばれることは大変名誉なことである。また、演者は様々な領域の専門家、あるいは違った意見を持った専門家が望ましい。それぞれの演者については、個別に質疑・討論を行い、総合討論は行わない。会場の参加者も個別討論に参加し、質問は受けても良い。セッションの所要時間は 2～3 時間で、演者総数は 4—6 名、演者の発表時間は質疑・討論も含め 30 分以内がふさわしい。

《パネルディスカッション》

数人の演者が一つの問題について全員で集中的に討議を戦わせるセクションである。司会者が主導となり総合討論を行い、演者は自己の経験や業績にもとづいて異なる意見を述べあう。演者による講演を行うかどうかは司会者に一任し、聴衆は演者間の討論の中から、今後の診療に取り入れるべきものを得る。したがって、一つの結論にまとまらないこともあるが、アンサーパッドなども取り入れ、司会者は一定の方向を示すことが望ましい。セッションの所要時間は 2—3 時間で、パネリストは 6 名以内がふさわしい。

《ワークショップ》

完成した研究成果より、むしろ未完成の進行中の研究をとりあげるセクションである。聴衆との討論の中で助言や今後の方向性が指摘される。斬新な考えや新しい方向などを示すような発表が望ましい。セッションの所要時間は 2—3 時間、各演者の発表討論時間は 15 分以内で、発表内容が多岐にわたることから総合討論は司会者の判断で有無を検討する。

2. 各種賞の推薦について

平成 24 年度から文化財団や科学財団などから各種賞の候補推薦が依頼された場合には、本委員会にて募集し、選定を行っている。